

第3回

堺市上下水道事業経営戦略中間改定懇話会

－第2回懇話会意見への対応－

2026年7月29日（水）

堺市上下水道局 災害対策会議室A・B

第2回懇話会意見への対応

- 第2回懇話会（6月30日実施）での構成員意見を受け、下記のとおり経営診断書の追記・変更を行いました。

項目	経営診断書 該当頁番号	内容	対応
1. 施設の効率性・ ダウンサイジングに ついて	P.19（水道） P.36（下水）	経営指標による分析（効率性）	「課題及びリスク」の追記
2. 経営基盤の 強化について	P.56	計画評価：経営基盤の強化	施策評価の変更
3. 利用者との信頼 関係の構築につ いて	P.59	計画評価：利用者との信頼 関係の構築	施策評価の変更

1. 施設の効率性・ダウンサイジングについて

【構成員意見】

- 施設のダウンサイジングや最適化について、課題として記載され続けているが、そろそろ具体的な実施段階に移す必要がある。
- これらの取組は、短期で解決できるものではないので、将来を見据え段階的にプロセスを進めていく必要がある。

【対応】

- 本市では、将来の水再生センターの最適化に向け送水管を整備するなど、長期視点での方針に基づき、計画的に取組を進めている。
- 取組にあたっては、施設の廃止やダウンサイジング、場合によっては増強も含め、事業課題や対象施設に即した対応が必要と考えている。
- この旨、**以下のとおり経営分析の「効率性」の（課題及びリスク）に追記**する。

（水道事業）経営診断書P.19

- 今後も継続的に人口減少が進むことにより、さらに施設能力の余剰が想定されます。そのため、長期視点での方針に基づき、廃止やダウンサイジング、施設強靱化のための増強等を含め、優先度を踏まえた取組を計画的に進める必要があります。

（下水道事業）経営診断書P.36

- 今後、処理区域内人口の減少に伴い、汚水量の減少が見込まれます。そのため、長期視点での方針に基づき、廃止やダウンサイジング、施設強靱化のための増強等を含め、優先度を踏まえた取組を計画的に進める必要があります。気候変動により激甚化する降雨には、今後策定する雨水管理総合計画に基づき整備を行う必要があります。

2. 経営基盤の強化について

【構成員意見】

- 令和7年度の水道事業の実績が良好な要因は特別利益によるもの。料金回収率が100%以下となり、純損失の発生が予測される状況では、地方公営企業に求められる独立採算の原則を逸脱している。
- 「経営基盤の強化」のKPIは「純損益」と「単年度資金収支」の2項目だけでよい。評価対象を見据え、指標の見直しも検討されたい。

【対応】

- 「経営基盤の強化」にあたっては、「純損益」及び「単年度資金収支」をKPIとしているが、その要因分析や補足のため、経営指標等に基づく経営分析を行っている。
- KPIの数値目標は達成できているものの、経営指標の状況等から「将来にわたり安定的なサービスの提供」という施策目標の達成について、課題が残る状況にある。
- 上記を踏まえ、**「経営基盤の強化」の評価は、「A」から「B」に変更**する。
- 後期4か年においても、事業環境や経営状況を踏まえた施策評価に取り組む。

※経営診断の経営指標とKGI・KPIの関わり

- ・ 毎年度の経営診断において、KPIをはじめ収支見通しにおける各項目の計画値と決算値の差異、その要因や経営環境の変化を捉え、次年度計画の見直しに反映する。
- ・ 分析にあたっては、①収益性②安定性③効率性の3区分から構成される経営指標を経年比較、大都市平均値と比較することで、現在の本市の状況を客観的に把握する。

2. 経営基盤の強化について

経営診断書P.56

施策番号	施策名
02	経営基盤の強化

【修正前】

評価	評価理由
A	収支バランスの改善や広域連携・公民連携の取組を計画どおり実施し、計画を上回る純利益を確保しました。また、KPIも達成したことから、「A」評価としました。



【修正後】

評価	評価理由
<u>B</u>	収支バランスの改善や広域連携・公民連携の取組を計画どおり実施し、KPI「純損益」及び「単年度資金収支」は計画値以上となりました。 <u>一方で、水道事業では、料金回収率が100%を下回っており、必要な費用を料金収入で賄えていない状況が続いています。また、令和8年度以降は純損失の発生が見込まれ、施策目標である「将来にわたり安定的な上下水道サービスの提供」の達成に対して課題が残ることから、「B」評価としました。</u>

3. 利用者との信頼関係の構築について

【構成員意見】

- 施策評価を「C」評価としているのは、KPI「情報の見たことがある割合」が前年度より0.8ポイント低下したことが要因とされているが、これは大きな減少ではないと考える。
- 情報発信と同時に情報を受け止める機会を設けることも重要である。

【対応】

- 本施策の評価は、市政モニター500人を対象としたアンケートにおいて、「見たことがない」割合が増加したことを重く受け止めたものである。
- 一方で同アンケートにおいて、「見たことがある」割合の0.8ポイント低下はほぼ横ばいと考え、**「利用者との信頼関係の構築」の評価を「C」から「B」に変更**する。
- 発信した情報が市民に効果的に伝わるように、いただいた意見も踏まえ今後の取組内容に反映する。

※市政モニターアンケート

上下水道局から発信している情報をご覧になったことがありますか？

	R7	R6	前年比（R7/R6）
見たことがある	18.4%	19.2%	-0.8ポイント
見たことがない	48.7%	42.5%	6.2ポイント
気にしたことがない	32.9%	38.2%	-5.3ポイント

3. 利用者との信頼関係の構築について

経営診断書P.59

施策番号	施策名
02	利用者との信頼関係の構築

【修正前】

評価	評価理由
C	各種アンケート調査や積極的な情報発信を行いました。KPI「情報を見たことがある割合」は前年度から低下しており、令和12年度目標達成にむけては抜本的な見直しが必要であることから、「C」評価としました。

【修正後】

評価	評価理由
<u>B</u>	各種アンケート調査や積極的な情報発信を行いました。KPI「情報を見たことがある割合」は前年度と <u>ほぼ横ばいとなりました。アンケート結果を分析すると、「見たことがない」割合が増加しており、令和12年度の目標達成に向けては、取組内容の見直しが必要であることから、「B」評価としました。</u>